



沖歯科医院便り



発行/沖歯科医院 〒053-0855 苫小牧市見山町4丁目1-6

☎0144(72)8558 ☎0800(800)8545

<http://www.oki-dentalclinic/>

菌やウイルスの入口であるお口を清潔に

沖歯科医院では各種感染症対策として、①身体的距離の確保②マスクの着用③手指消毒に加えて、「お口を清潔に保つ」ことも忘れずに行っていただくことを提案しています。

お口の中には多くの細菌が存在し、日々のお口のケアが行き届きにくい歯と歯の間や歯と歯ぐきの境目には細菌のかたまりであるデンタルプラーク(歯垢)が蓄積しやすく、お口の病気のもとになります。

また、お口の中の細菌増殖は、誤嚥性肺炎のリスクを高めたり、インフルエンザウイルスの感染を促進したりする可能性も明らかになるなど、日々のお口のケアを徹底し、お口の清掃状態を良好に保つことは、お口と全身の健康維持や感染症対策としても重要であるとの認識が高まっています。

新型コロナウイルスは、ウイルスの潜伏期間が1~14日程度で多くは5日程度を要すると言われており、発症前の無症状の人も含め発症前後の時期の人からの感染が多い可能性もあると指摘されています。

新型コロナウイルス感染者の唾液には、ウイルスが含まれているといわれ、無症状の感染者のお口の中にも同様にウイルスが存在し、それが飛沫とともに排出されて他の人と接触した際に感染が広がると思われます。

米国疾病予防管理センターも、新型コロナウイルス感染拡大期における歯科医院向け暫定歯科対応要綱の中で、歯科治療前にCPC(セチルピリジニウム塩化物水和物、塩化セチルピリジニウムとも言う)等の殺菌成分を含む薬液による洗口を行うことは歯科治療中に発生するエアロゾルや飛沫中にある口腔内の微生物量を低下させる可能性があると言及しています。

当院では、感染予防対策の一環として来院時の検温、手指消毒の他に、治療前に殺菌成分を含む薬液でのがいをお願い致しております。また殺菌成分を含むうがい薬は窓口で販売もしておりますので、購入を希望される方はお気軽にお声掛けください。

サンスターH P 参照

歯とお口に
まつわる歴史

デンタル ヒストリア

日本最古の“総入れ歯”って どんなもの？

現存する日本最古の総入れ歯は、今から約500年前の1537年に74歳で亡くなった尼僧・中岡テイさんが使っていたものです。日本人の器用な手先と豊かな森林資源によって、室町末期に木製の入れ歯が誕生し、江戸時代には入れ歯を彫る“入れ歯師”と呼ばれる職人も生まれました。テイさんが使っていた入れ歯もすべて木製で、上あごの粘膜に吸着して固定する仕様だったようです。奥歯がすり減っていたため普通の食事の時にも使われていたのではないかと推測されています。ちなみに、入れ歯にはお歯黒も施されていたそうですよ。どんな使い心地だったのでしょうか。

